

若き歴史の継承者たちへ

Φ 過去の優勝校 Φ

年	月	男子	女子	年	月	男子	女子
25	11	春日部		60	9	春日部東	〃
26	11	〃	越ヶ谷	61	9	〃	久喜
27	11	〃	〃	62	9	〃	春日部女子
28	11	〃	春日部女子	63	9	八潮	久喜
29	11	〃	〃	元	9	三郷	越谷西
30	11	〃	越ヶ谷	2	9	春日部東	春日部女子
31	11	〃	〃	3	9	〃	春日部東
34	10	〃	〃	4	9	〃	八潮
35	11	〃	〃	5	9	〃	久喜
45	9	〃	久喜	6	9	〃	〃
46	9	〃	〃	7	9	〃	〃
47	9	〃	春日部女子	8	9	越谷南	〃
48	9	〃	岩槻商業	9	9	〃	〃
49	9	〃	〃	10	9	〃	〃
50	9	〃	〃	11	9	春日部東	〃
51	9	〃	久喜	12	9	〃	〃
52	9	〃	〃	13	9	〃	〃
53	9	〃	春日部女子	14	9	〃	〃
54	9	〃	久喜	15	9	〃	〃
55	9	不動岡	草加南	16	9	〃	〃
56	9	草加南	〃	17	9	〃	〃
57	9	三郷	久喜	18	9	〃	〃
58	9	〃	三郷	19	9	〃	〃
59	9	〃	〃	20			

東部新人大会で、昨年までに 19 回の総合優勝を獲得してきた我が春日部高校
陸上競技であったが、今大会でまた新たな歴史を積み上げることとなった。

新主将・高山

110mHで3位を
決めた高山が「91」
のゼッケンを胸にリ
ーダーの活躍を見せ



る。バックスクリーンでの快走が冴える。



主将は両ハードルで
12点をたたき出し、
石関も含めて16点を
マークした。

110mH決勝

風速 -2.2

順	レーン	No.	氏名	所属名	記録/備考
1	7	2799	馬場 和樹(2)	昌平	14.92 大会新
2	6	1569	藤波 航(1)	草加	16.38
3	5	91	高山 和希(2)	春日部	16.42
4	4	2801	松崎 孝紀(2)	昌平	16.65
5	9	100	石関 秀伍(2)	春日部	17.18

400mH決勝

順	レーン	No.	氏名	所属名	記録/備考
1	7	3603	渡辺 幸樹(2)	春日部東	56.50
2	5	2551	石黒 章恭(2)	越谷西	56.62

3	6	91	高山 和希(2)	春日部	57.22
---	---	----	----------	-----	-------

男子200mの戦い



1年の青山と2年の吉澤が火花を散らす！





200m決勝

風速 -2.2

順	レーン	No.	氏名	所属名	記録/備考
1	5	3602	青木 孝夫(2)	春日部東	23.41
2	4	93	吉澤 孝幸(2)	春日部	23.52
3	3	1563	浜野 友照(2)	草加	23.57
4	7	573	矢作 大地(2)	羽生実	23.67
5	6	115	青山 翔太(1)	春日部	23.68

中長距離の充実

長距離選手育成に高い評価を持つ秋庭先生が赴任してまだ半年未満。

春高の新しいカラーとして、長距離陣の活躍はもはやクラブの中軸になろうとしている。そして3000mSCで春高初となる東部1, 2, 3位独占という快挙を成し遂げた。

3000mSC決勝

順位	No.	氏名	都道府県	所属名	記録	備考	組	順位
1	14	大久保 誠吾(2)		春日部	9:41.19		1	1
2	8	青木 海(2)		春日部	10:02.36		1	2
3	6	渡辺 堅斗(2)		春日部	10:03.13		1	3

5000mの激走

今大会の長距離の最後を飾る5000m決勝が気温30度の中始まった。





15分前半にチャレンジする大久保。



チームメイトも熱い応援を送

15分台を目指す斉藤悠介。

1年ながら5000mにチャレンジする斉藤裕介。

作戦を立てた秋庭先生の檄がとぶ！

「最後の1000mで決まるぞ！！」



る！



5000m決勝

順位	No.	氏名	都道府県	所属名	記録	備考
1	2	小根山 泰正(2)		花咲徳栄	15:18.16	
2	1	名倉 啓太(2)		花咲徳栄	15:35.01	
3	5	大久保 誠吾(2)		春日部	15:37.35	
4	4	田中 亮太(1)		花咲徳栄	16:07.24	
5	9	齊藤 悠介(2)		春日部	16:08.32	
6	8	増川 喜輝(1)		越谷西	16:14.80	
7	3	島田 雄太(2)		春日部東	16:31.94	
8	22	小川 大樹(2)		吉川	16:32.00	
9	18	藤田 浩弥(1)		白岡	16:43.45	
10	30	古都 旺治(2)		羽生一	16:47.69	
11	20	沼野 元春(1)		春日部共栄	16:51.23	
12	11	山口 智成(2)		越谷西	16:52.41	
13	15	吉田 尚矢(2)		越ヶ谷	17:01.79	
14	16	松浦 洋介(2)		越谷北	17:05.12	
15	19	出口 賢(1)		越谷北	17:07.99	
16	21	岡田 直也(2)		越谷北	17:09.24	
17	10	山口 泰斗(2)		春日部共栄	17:11.98	
18	26	斎藤 裕介(1)		春日部	17:14.36	

800m決勝

順	レーン	No.	氏名	所属名	記録/備考
1	5	1561	吉田 雄輝(2)	草加	2:03.13
2	2	2556	竹田 竣祐(2)	越谷西	2:03.84
3	4	3619	土井 雅樹(2)	春日部東	2:04.26

4	3	1572	笹本 航平(1)	草加	2:05.04
5	9	108	大内 周平(1)	春日部	2:05.56

1600mR 決勝

総合は決まったが最後のマイルは粘りたい。





800mでは無念の結果だった野村が、マイルで意地を見せる。大きく先行する2チームをぶち抜いた！！

野村の見事な追い上げ！！



この時点で春高の30年ぶりの「東部新人制覇」が決定した。





竹村先輩の総評。

この言葉が現在の高校陸上界、埼玉の陸上の将来が決して安泰ではない戒めとなった。

「投擲で県高校新記録ができました。しかし風が邪魔したとはいえ、短距離、跳躍のレベルは低かった。これでは県に行って十分戦えるのか？ 県まで3週間だが、各自気を引き締めて頑張ってもらいたい・・・」



私も正直、心配である。

現場指導者の方々や選手は、とにかく頑張っていると思う。

しかし競技人口の激減からの低競争率、学生の意識の低下は否めない。だれのせいでもなく記録は伸び悩んでしまうのだ。

跳躍やハードル、リレーにその兆候が見られる。エントリーが少ないのだ。

ということは、フルエントリーする体制まで作れないのだと思う。

やはり競技人口が、何かしらのきっかけで増えないことには、競技全体のトーンダウンは否めない。

競技人口がピークを迎えた80年代後半から90年代は本当に埼玉は強かった。

大会記録を見ればそれがよく分かる。その頃の東部地区は、現在の県大会くらい。県大会は今の関東くらいのレベルであったのだ。

しかしトレーニング方法は進化しているので、現在であっても少数のトップ選手は高い力を発揮するだろう。

大事なのは、いかにそのトップ集団に近づき、高い競技意識を持ってついていくかだ。

総合優勝に思う

今回の総合杯は理屈抜きにうれしい。しかし、強い中学生をスカウトできない我が校は、高い総合力を常に維持はできない。必ず勝ったり、負けたりを繰り返す運命にあることも分かっている。・・・仕方ないのだ。

だがどんなときも、現役諸君が東部総合を狙うことには非常に大きな意味がある。「全員得点を目指し、一人でも多く埼玉県大会で食らいつき入賞する！」この意識の高さを地域にアピールしていくことが、陸上界の活性に貢献できるのは間違いないのだ。



筆 撮 のもと歯科